

## 平成30年度第1回 札幌市男女共同参画センター運営協議会

日時：平成30年8月28日（火）午後6時

場所：札幌エルプラザ公共施設2階 会議室3・4

出席者：委員（大友委員、北浦委員、高橋委員、辻委員）

札幌市男女共同参画課 須藤課長、ヴィーライアン係長、塚澤さん

札幌市男女共同参画センター 齊藤部長、高橋課長、野坂係長、菅原

藤原主任指導員、千葉指導員、柴田指導員

### 議事

#### (1) 札幌エルプラザ公共4施設の平成29年度管理運営に関すること

- ・視察・見学、施設外事業の人数が減っている理由は？《質問》
  - 視察・見学は各関係機関からの依頼があって発生するため、その時の来館人数などによって変動がある。また、施設外利用は、前々年度に地下歩行空間を活用した事業を行ったため、数字が平年より著しく多くなっている。
  - 施設の老朽化や、経済優先の社会状況により、利用人数が減少していると分析している。
- ・利用者数が増加し続けるような目標設定は現実的ではなく、右肩上がりばかりを求める状況ではないのではないか。《意見》

#### (2) 札幌市男女共同参画センターにおける事業に関すること

##### ①平成29年度事業報告

- ・事業の告知はどのように行っているのか《質問》
  - 公共施設や商業施設等へのちらしの配架やSNSでの拡散、リピーターへの案内等を行っている。対象によるところが大きく、30～40代の働く女性へのリーチは得意だが、男性や20代女性へのリーチに苦勞している。
- ・ガールズ相談の対応状況について、どう評価しているか《質問》
  - 600件弱の相談に対して相談完了数が200件弱であるので、対応件数は課題があると考えている。今後は男女共同参画センターで人や予算を増やして対応件数を高めていくのではなく、男女共同参画センターのLINE相談のノウハウとジェンダー視点を拡げていくことを目指して他機関と連携することで対応件数を高めていく方法を取りたい。
- ・ガールズ相談の結果をどう分析し、事業に反映させていくのか《質問》
  - ガールズ相談で寄せられた相談を分析することで、今の若年女性の課題を把握することが必要であると考えている。そして、北星学園大学で情報提供をしたようにその結果を発信していくこと、また「ガールズ事業」でセクシュアリティを題材にしたように、事業化していくことが求められている。

以上のように、相談事業・情報事業・学習機会提供事業の相乗効果を図ってきたい。

②平成30年度事業計画

- ・男性向けワーク・ライフ相談はどのような形態で実施するのか《質問》
- 札幌市と協議中である。電話相談、グループ相談、LINE相談、…さまざまな形態の相談の中で、どれが男性にとってアクセスしやすく、内容的にも男女共同参画センターで実施する妥当性があるのか検討したい。

(3) 男女共同参画センターの協働（パートナーシップ）、中間支援のあり方について

- ・ジェンダーに関する活動をしている団体との協働については、行政の仕組みや制度の不備等の構造的な問題について、議論を深めるような支援が必要ではないか《意見》
- ・コミュニティセンターや児童館、保健センター、学校など住民サービスを行っている機関において研修を行うなど、ジェンダーの視点や問題意識を伝えていくことが必要ではないか《意見》
- ・ジェンダーに関する活動を行っている団体は、同じ分野内でのつながりは強いが、他分野の団体とのつながりがつくり切れていない印象がある。限られた資源をいかに他分野と連携して活動するかというところで、コレクティブインパクトの手法などが参考になるのではないか《意見》
- ・企業や経済界が持っているノウハウを引き出す代わりに、事業において起業や企業の取り組みなどの成功事例を生み出せるといい。

以上